

アピール

大阪・瀬戸内をつなぐマリタイムルートの構築
～2025年大阪・関西万博を好機と捉えて～

2023年10月

一般社団法人関西経済同友会
広域観光推進委員会

I. 問題意識

① オーバーツーリズム対策

コロナ禍以前から、関西では、オーバーツーリズムの問題が生起しており、関西地域内だけではなく、関西地域外、特に中国・四国・九州方面への観光客の分散施策が必要である。関西以西への観光客分散を達成するためには、瀬戸内海沿岸地域に向け、舟運を活用した水都大阪の活性化、またそれに伴う瀬戸内海～大阪湾の新たな連携(大阪・瀬戸内をつなぐマリタイムルートの構築)をもって観光開発を図ることが必要となる。

② 観光産業の高付加価値化

コロナ禍以前、観光産業はインバウンドにより量的に大きく飛躍した。次の課題は、高付加価値化による質的な成長である。関西国際空港を擁するインバウンドの玄関口“大阪・関西”と、欧・米・豪を始めとしたグローバル富裕層から高く評価される“瀬戸内”を舟運でつなぐことで、消費額の大きい層を取り込める観光産業の構築を推進すべきだ。

以下、本問題意識のもと、2025年の「万博まで」と2026年からの「万博以降」の時間軸に分け、必要と考える施策を述べる。

II. 万博まで

本年5月に公表された、『来場者輸送具体方針 第2版』において、水上交通利用が明記されたことは、万博会場輸送分散化の有効性をもとより、2025年以降の観光開発、地域創生においてインパクトを生む意義あるものとする。

我々、関西経済同友会 広域観光推進委員会では、舟運需要が見込める水都大阪の口の字型水の回廊の活性化、そして2025年に開催される瀬戸内国際芸術祭と大阪・関西万博の両会場を水上交通で結び、「大阪市内～大阪湾ベイエリア～瀬戸内」の広域観光活性化も見据え、調査・研究を、舟運事業者と連携し、進めている。

問題意識に立脚し、具体方針第2版で「9. 対応・検討が必要な課題」として示された課題に関し、今秋に公表が予定される具体方針第3版の策定において、特に水上交通に関して、留意されるべきと考える事は次の点である。

- 具体的な運行計画の検討・立案における、関西以西、瀬戸内海の舟運事業者との十分な対話
- 喫緊の課題として、大阪市内の川から海につながり夢洲・天保山に向かう航路、神戸港から夢洲・天保山への航路の想定、支援
- 大型船が夢洲に直接着岸できない状況を踏まえた、着岸が想定される天保山客船ターミナル等の利用手続きの簡便化や夢洲までの円滑な移動への協力、助成

III. 万博以降

ポスト万博を見据え、2025年万博での水上交通利用が、2030年には西日本全体に広がる水上交通のレガシーとすべきである。そのために必要と考える施策は次の通りである。

- 中型船用栈橋の本設化、大型船も接岸できる夢洲北護岸の強化
- 大阪湾～瀬戸内海までの広域観光水上航路と、四国・中国地方への航路延伸

以上

参考:アピール先・アピール項目

*順不同、敬称略

アピール先	アピール項目
公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会	関西地域外への送客の位置づけ 舟運事業者との対話
近畿地方整備局	中型船用棧橋の本設化 大型船接岸可能な北護岸強化
近畿運輸局	各種航路の新設と延伸
大阪港湾局	舟運事業者との対話 万博時の天保山客船ターミナルを利用する大型船への協力 大型船接岸可能な北護岸強化 中型船用棧橋の本設化 各種航路の新設と延伸